
| | | | |
|-------|------|--------|----------|
| 報告者名 | 李 善姫 | 被調査者生年 | 1936年(男) |
| 調査者名 | 李 善姫 | 被調査者属性 | 宮司 |
| 補助調査者 | なし | | |

上山八幡神社は、鎌倉時代からの歴史を持つ。現宮司は25代目。今回の津波で、宮司のご自宅も津波に流されたが、高台にあった八幡宮は無事であった。

震災時

町には、20年前から有事に避難所として神社を使っても言いと申し出ていたが、指定避難所にならなかった。今回も10人ほど、避難してきたが、避難所として使ってもらえなかった。

昭和35年までチリ地震の津波までは、防災センターの横に神社の拝殿まで浸水した。昭和35年今のところに移転した。

自宅は、35年前の津波では、60人ぐらい避難していた。

3月11日は、宮城県沖地震だと思い、保育所の前に避難した。保育所の前には、海岸沿いの家の人が300人ぐらい避難していた。

海を眺めていたら第1波が来た。そこまで水が上がってきたので、神社の裏の小学校まで逃げた。神社の鳥居の横には、東日本大震災時に波が到達したことを記す「波来の碑」が建てられた。

氏子と祭り

氏子は1,100人ぐらい。そのうち800人が津波の被害を受けた。氏子さんが、バラバラで、他地域にも出ている。今でも氏子さんの所在が把握できていない。震災直後の4月末までには小学校に800人避難していたが、その後、登米、栗原、加美町、大崎の4か所に2次避難した。氏子さんの顔を見たいと思い、大崎に探しにいったが、個人情報のため、門前払いされたところもあった。非常事態にもかかわらず、個人情報という法律で宮司が氏子に会えないというのは、納得ができない。

正月にお札を受けに来ない限り、所在把握ができない状態である。ただ、仮設が狭いから神様を祀るところがないと、受けにこない人も多い。神様と仏様から離れてしまう人がいっぱいいる。

去年の9月14、15日には、秋祭りをおこなった。総代さんたちと相談して、行うことにした。その時までは鳥居の下まで瓦礫があった。ちょうどその時に、神戸からのボランティアの人が寝泊まりをされていて、インターネットで呼び掛けたら全国からボランティアが来るようになった。皆が瓦礫を撤去してくれた。本当にありがたかった。

当時、総代さんが各仮設にバラバラだった。去年の8月末まで所在が把握できなかった人もいた。ボランティアさんが残って一緒にお祭りをしてくれることで、盛大にお祭りができた。神楽は、津波の被害がない北上町に神楽保存会があるので、奉納することができた。しかし、お祭りに地域の人の参加は、僅かだった。また、町を練り歩く、お神輿もできなかった。例年は、15日に町で次の小学校に入る稚児が神輿を担いできて、神社で記念撮影をしていた。その行事は、できなかった。

総代さんは、全員約45人で津波で亡くなった人が1人、津波後にまた3人亡くなった。今は、約15人ぐらいしか集まらない。皆が仮設住宅に住んでいる。登米や仙台、仙南に移った人もいる。

高台移転

町で、目に見える復興計画が出ていないので、今後の事については、まったくわからない。3か所、高台があると、図面は見せてもらったが、まだ全然動いてないので、今後がわからない。すでに、地域から離れている人が多くなっている。町ができると言っても、かえってくる人が半分いるかどうかわからない。仕事もないからなおさら心配である。

管轄神社の被害

5つの神社を管轄している。西宮神社、保呂羽神社、古峰神社、荒島神社、八幡神社。

荒島神社の多きい赤い鳥居が流され、境内に上る階段も破壊された。荒島は個人の所有なので、まだ全然復旧していない。お祭りの時だけ、人々が集まる。

契約講

この震災で解散したところが多い。宮司さんの住まいの契約講も解散した。

荒島神社のお祭りは、本浜地区の漁師たちが担ってきた。荒島神社は、そもそも昭和37年ぐらい本浜の道路拡充工事で本浜の氏神様を置いておけなくなったのをきっかけに、荒島に神社を作って氏神様を移したことから始まっている。本浜の氏神様の祀りが7月24、25日で、24日の夜に島の神社からご神体を船に乗せて、元の場所に戻して祀っていた。昭和40年ほどから、漁師たちがご神体を船に乗せて、その周りには小舟がかがり火をつけ、運ばせた。志津川湾に入る時には花火を打ち上げた。これが志津川の夏祭りの始まりだった。その後、漁師さんの船がだんだん大きくなって、また、志津川湾に養殖も増えることもあり、船でご神体を運ぶことができなくなった。消防法で花火もいろいろと規制されたが、時期的にちょうど子供の夏休みの始まりと一致するので、町の夏祭りを兼ねるといふ行事として発展してきた。ところが、最近は8月の最終の土日に夏祭りをしたいという町の要請があり、荒島神社の祭りといふ町の夏祭りが別々に行われるようになった。花火は、町の夏祭りで行っていた。

志津川の夏祭りの元となっていた荒島神社の祭りを主幹していた「本浜契約講」も今回の震災で解散した。今後荒島神社の祭りはできなくなった。

西宮神社は、恵比寿講で運営されている。恵比寿講は続くことにしている。

保呂羽神社は、半分は被害を受けたが、講は持続している。

古峰神社の場合、もともと古峰講は90人ぐらいだったが、今回の震災で半分以上が脱退した。

各神社の今後はまだまだ不透明である。



写真1 上山神社からみた志津川町



写真2 鳥居のすぐ傍に建てられた「波来碑」。東日本大震災の津波到達地点を記している